

現行基本構想の検証の概要

資料2（現行基本構想の検証資料）により、検証を行った。
検証結果の概要は次のとおり。

1 策定の趣旨について

検証作業等を通して得られた新しい時代認識に合わせ、必要な見直しを行う必要がある。

2 都市像について

都市像の4分類は、仙台の歴史的蓄積としての「健康都市の風土」、「杜の都の風土」、「中枢都市の機能」、「学都の知的資源」から導かれており、次期基本構想においても、この分類を基本に考えていくべきではないか。

ただし、「地球環境時代を先導する」、「地球的交流の要」、「世界の学都」を始め、都市像の表現については見直しが必要ではないか。

3 施策の基本方向について

各施策の基本方向については、将来においても妥当するものが多いと考えられるが、新しい時代認識を踏まえ、所要の見直しが必要（詳細は資料2）。大枠での体系的な見直しが必要なものとしては以下のとおり。

①やさしさと健やかさに満ちた市民のまちをめざして

⇒大きな柱の一つであるいきいきとした地域社会の形成については、体系を含めた見直しを検討する必要がある。

②地球環境時代を先導する悠久の杜の都をめざして

⇒循環型都市づくりが大きな柱の一つとされているが、現在の環境体系においては、持続可能な都市づくりが最上位にあり、その下に資源循環型都市づくり、低炭素都市づくり、自然共生都市づくりが並列の位置づけであるため、体系を含めた見直しを検討する必要がある。

③地球的交流の要となる新しい中枢都市をめざして

⇒大きな柱の一つである都市構造の形成については、時間経過による都市、地域の変化が今後も生じることを念頭に、体系を含めた見直しを検討する必要がある。

4 基本構想の推進について

市民主体のまちづくりについては、基本構想では、構想の推進に位置づけられ、基本計画でも市民の力を生かした協働の都市づくりを前提とされているが、更にそれらを強く打ち出すことが必要ではないか。

5 その他

- ① 現行の基本構想・基本計画の体系は、既存の市の施策を網羅的かつ重なりなく体系化しており、施策を実施する上で非常に使い勝手のよいものになっている。しかし、現行の政策体系や組織体制では対応しきれない問題が出てきており、NPO協働、若者支援、介護予防、東西線（まちづくり）、郊外住宅地の在り方など、組織横断的な課題への対応が必要になってきている。

このため、基本構想から導かれる既存の政策体系を維持しながらも、基本計画レベルにおいて、組織横断的な対応が特に必要となる施策を位置づけ、あわせて、その推進体制の構築にも留意しつつ、総合計画全体としてみたときに縦軸と横軸を組み合わせる立体的な施策体系を示すことを検討すべきではないか。

- ② 基本構想として記載すべき内容と、基本計画として記載すべき内容の見直しも必要ではないか。レベル的に基本計画の記載で良いものも基本構想に記載されているのではないか。